（別紙2）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1870103262		
法人名	一般社団法人　イージーケアネット福井		
事業所名	グループホーム　楽ちんの家　笑楽		
所在地	福井市大久保町1-61		
自己評価作成日	令和　2年　7月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和　2年　8月　12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当法人は外出などアクティブな活動を多く取り入れている。「何かした」「何処へ行きたい」等利用者と共に考え、利用者の声を聞き入れて実践しています。また昼食、夕食は、利用者と一緒に献立を立て、調理をしている。買い物等も一緒に出掛けて品物を選んでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

内覧会には地域住民が多数参加し、事業所への関心の高さを物語っている。隣接するデイサービスセンターとの交流も盛んであり、地域に望まれる事業所を実現するため、小規模ならではの自由な雰囲気と利用者個々の要望を取り入れようと、管理者と職員はフットワークが良い。地元の利用者が多数を占めることもあり、事業所内での役割分担も自然に皆で助け合い、心と身体のリハビリに繋がっている。たとえば食事作りは、当日の朝に、冷蔵庫の中をみて職員と利用者が献立を作成し、不足分を買い物に出かけ調理の段取りを組み、共に実践している。居室からは、緑の田畑や山々が映え、地域に住んでいる安心感が実感できる。新型コロナウイルス感染症の影響で、地域との交流など思うようにできずにいることはあるが、前向きな姿勢が見られ、今後の対応が期待できる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に全スタッフを集め研修会（3/28）を行う中で法人基本理念をもとに自称所の在り方について学んでいる。	法人理念に基づき、管理者と職員が一丸となって、その理念を共有して実践に繋げている。ユニークな取り組みとして、『楽』というロゴマークと理念をユニフォームにプリントし、認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で地域の交流は出来ずにいる。自治会長とは定期的に状況報告や相談等行っている。	新型コロナウイルス感染症の影響で、地域での交流は思うように出来ていない。自治会にも、12月からしか加入できず、状況を見ながら進めていけるよう前向きに考えている。	地域とのつながりを強化して、地域の一員として日常的に双方が支えあえる関係づくりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7/16に地元の小学校の認知症サポーター養成講座の講師として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で5月は書面での報告とし、助言を受ける。7月は開催し、サービス向上について話し合う。	2か月ごとの開催を予定。新型コロナウイルス感染症の影響で、5月は書面での報告となった。7月は開催でき、ヒヤリハットやちょっとした事故もすべて報告し、風通しの良い関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ほやねっと東足羽包括センターの職員とは毎月広報誌等を持って行き状況報告や要望などについて聞き、関係作りをしている。	地域包括支援センターとの連携は良好で、運営推進会議の出席、ケアサービスの相談など日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設前の（3/28）に全スタッフを対象に身体拘束廃止について研修を行っており、玄関の施錠については防犯の為20時から8時まで行っている。	全職員に、身体拘束廃止の研修を行っている。美山地区介護事業所連絡協議会での研修や情報交換を活用して、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	各々外部研修にて虐待の防止について学んでいる。開設前（3/28）に全スタッフを対象に高齢者虐待防止についての研修会を行い何が虐待につながるのかを学ぶ。事業所内外を含めて今後も徹底していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は研修、勉強会はおこなわれていないが、今年度中に行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表・管理者が立ち会い、十分な説明を行い、質問等に答え納得したうえで、締結している。3か月後に取れる加算についても、家族を呼び説明、納得して頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所、面会時に話を聞いている。家族本人の思いを踏まえたうえで会議にのぞんでいる。	家族の面会時、担当者を中心に近況報告を行い、家族の意見を聞き、本人の意見を尊重して運営に反映させている。オンライン登録等も準備している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の笑楽会議、法人会議を行い、色々な意見や提案を聞き入れ業務に反映している。又、個人面接を行い、意見を聞いて対応している。	試用期間2か月後の個人面談での意見の収集、毎月の笑楽会議、法人会議においても職員の意見や提案を聞き取り、フィールドバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活に負担にならないよう個人の提案、要望を聞き入れ、職員が働きやすい環境を築いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マンツーマンでの指導やタブレット動画を活用して指導している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敦賀市で有名なグループホームの見学、同じ美山のグループホームの見学を行い、コロナウイルスが終息したら勉強会など実施していきたい。同業の仲間よりアドバイス等もらっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者に利用者及び家族面談を行い要望聞いて取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の言葉や家族の感じている根本にある思いを引き出し、ケアにつなげている。家での様子など、話を聞き本人らしい暮らしの継続を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	笑楽での生活で何を大切にしてほしいかを聴き、ケアに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事内容や、外出等の計画を一緒に行い、大家族での生活を意識したうえで、ケアを行っている。洗濯や掃除など、自宅での生活に沿った内容の提供に努めている。その中で利用者間で協力しながら作業をともに行う事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の体調や生活上での困りごとは都度連絡を取り合い相談として決めている。日々の様子を伝えたり、面会時にも本人と家族がゆったりとした時間が過ごせるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係継続の為、外出行事に家族参加を呼びかけたり、誕生会では衣装などを依頼している。馴染みの場所にドライブや外出に行っている。毎月職員のコメントを添えたお便りを出している。利用者と共に暑中見舞のはがきを作り送っている。	常に家族との関係を維持できるように、誕生会での衣裳依頼や、行事参加などを呼びかけている。隣接のデイサービスセンターからの情報収集や、当事業所との関係を密にすることで、馴染みの関係を継続させている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ともに畑仕事や制作等をして、職員が利用者を巻き込む形で関係作りしている。利用者同士で相手を気遣う様子や助ける姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退所された方はいないが、退所後もアフターケアに努めた支援を行っていきたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に添えるように介護計画を立案している。又は、昔の生活からホームの生活に取り入れている。	アセスメントシートを活用し、本人・家族の思い・意向を取り入れ把握している。日々の生活記録は、その日の記録担当者が情報収集し、データ入力をして介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聞き取りを行い、今までの暮らしに出来るだけ近い形での生活に努めている。家具や、茶碗などを持ってきて使っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当を決めて、生活面での困りごとや本人の要望を聴き対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや本人、家族等の意見を取り入れ、介護計画を作っている。	日々のケア記録を参考にして、本人・家族の意見を取り入れて、担当者会議を開き介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアプランに沿って日々の記録を残している。会議などを通してケアや計画の見直しをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の気付きや利用者さんの要望はすぐにケアに取り入れ、実践している。職員同士でコミュニケーションをとり、繰り返し考えを重ねてさらに良い方向に進むように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部のボランティアを呼んでの行事を行っている。今後は地域の保育園や小・中学校との交流、地域住民を巻き込んだ行事計画していく予定。（公民館での活動にも参加していきたい）		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、1か月の様子を伝えるため、受診記録用紙を作成し、医師及び家族に状態を伝えている。またその際には、先生より困っている事等、記録し、アドバイスをもらい。今後の対応に活用している。	基本的には、家族が受診に付き添い、事業所からの『定期受診記録』を持参して、かかりつけ医との情報交換を行い、適切な医療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と常時連携をとりながら日常の様子や病気の状態など報告している。また、特変時すぐに連絡をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、即座に情報提供書を渡し、情報の共有に努めている。退院前も現在の状況を把握し、受け入れの体制を整える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では出来るだけ最後まで生活、看取りが出来るよう、ストレッチャー浴の完備、協力医、訪問看護との連携が出来るような体制作りに務めている。また、ACP(人生会議等)を順次取り入れていく予定です。	重度化、終末期に向けた具体的な支援体制の準備を進めている。本人・家族に対しては、最後はこうして迎えたいという『アバンス・ケア・プランニング』を順次取り入れていく予定である。	重度化・終末期に向けた対応について、事業所ができることを具体的にマニュアル化することや、新しい手法でより豊かな支援に繋げることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、それに基づいて対応している。今後　救急救命等の研修にも参加していく予定。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルに沿って、災害時の対処は解説前に、全スタッフに行っている。年2回の火災避難訓練も行う。（3月・9月）自治会長とも協議しており、協力をお願いしている。	主に、火災の避難訓練を予定している。開所前の3月に全職員で実施しており、敷地内には調理のための蓄水庫、スプリンクラー設備がある。	災害の種類に応じた避難訓練、水・非常食・備品等の備蓄、地域との協力体制など、早急な検討を期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に皆と一緒のフロアーではなく、日中も好きな時に部屋に入って頂き自分の時間を作ってもらっている。新人教育で人格の尊重やプライバシーの確保の研修も行っている。常日頃から職員同市で情報を交換し、実践している。	人としての尊厳を重視し、常に利用者への言葉遣い、態度などの確認を行っている。職員への気付きを促すため、管理者が悪い例を示して注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや体操への参加、入浴の誘い方、ご飯の量等、自分で選んで決められるように声をかけている。1日2回の水分補給時の飲み物はメニュー表を見て決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や仕草を見ながら、休息を促したり、天気の良い日は要望に沿って、近場のドライブに外出している。レクの時間だからと言って無理に参加促すのではなく、居室にて過ごされたい場合はそのように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出前に化粧をしたり、外出用の服に着替えるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	トレーではなく、ランチョンマットを使用することで自力での食事が楽になった方や足台を制作し、安定した食事姿勢をとることが出来るようにしている。好きなものを聞き、なるべく好きなものを召し上がっていただけるようにしている。特に誕生会。	朝・昼食は、利用者と職員が一緒に献立を考え、買い物をして準備・食事・後片付けを行っている。手作りのおやつ作りも楽しみになっている。誕生会には、本人の意向を重視して、特別な日として食事を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝の会で脱水について注意を呼び掛けたり、その人に合わせて持ちやすい飲みやすいコップに変更して対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回協力歯科医に往診してもらい、口腔内をチェックし、アドバイスをいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせたタイミングでの排泄介助に入っている。個人にあったパッド等はまだまだ模索中であるが、家族の思いや意向等を聞きながら考え対応している。	夜間の排泄は定時でなく、本人が排泄のために起きる時間を見計らって支援している。個人に合った排泄パット箱を試みるなど、創意工夫して自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供し自然排便を促している。（現に下剤を使用しなくなった方もいる）		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、その日の体調や気分によって曜日を変更したりしている。男性の後に入りたい方や、午前中に誘ってみる方、昼食後に誘うと入る方など、一人一人のタイミングに出来るだけ合わせようと試行錯誤している。	入浴は個浴で、個人の体調や気分に合わせて対応している。総桧の浴槽、大型ヒーターを設置し、視覚や臭覚からも入浴を楽しめる工夫を施している。さらに、寝浴ができる設備も併設し、安心・安全に入浴できる環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に読書をされる方、昼寝をする方、パジャマに着替える方、耳栓を使う方など、個人に合わせたケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬は全スタッフが理解して服薬している。定期受診票を医師に提供し、減薬したり、新しい薬を処方してもらったりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意な方は調理を行い、編み物が好きな方、裁縫が好きな方等その方が楽しんで行える物を常に考え提供している。（ケアプランにも落とし込み実施している）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事係を決めて、季節に合わせた計画を実施している。誕生会では本人の希望を取り入れた食事を用意している。	気分転換やストレス発散、五感の刺激の機会として外出を奨励していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で海水浴やデイサービスセンターとの合同行事などが中止となった。今後、家族や地域の協力を得て、開催を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持つことで安心する方もいるので、家族に相談したうえで、（小銭程度）持っている。欲しい物などは一緒に買い物行ったり、家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINE電話をしたり、直接電話をかけている。手紙のやり取りをする方もいる。（便せんや切手を用意している）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝明るい光（白）、15時暖灯に変えている。夜にかけて、徐々に暗くしている。食事や入浴時など音楽を流す工夫をしている。	木の温もりが感じられ、明るく、開放感があり、利用者が個々に楽しめたり、気の合う人同士で気楽に過ごせる空間になっている。兎がいたり、メダカの水槽があったりして、利用者が生きものと触れ合える配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファー3脚、廊下に1脚置いたり、和室でカーテンを引いて休んだりと居場所づくりの空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や家族写真、観葉植物、居室にはベッドとタンスのみで後は普段使用している物などを持参し、飾っている。	備え付けのベッドとタンス以外の私物も、利用者が思い思いに使い慣れたものを持ち込み、個性豊かな居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレの場所が分かるようにドアに張り紙をする、手すりの設置等、安心安全な環境を提供している。		